

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ペイリア門司 マリス	階数	地上14F
建設地	門司区大里本町3丁目8-101	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	524 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年8月 予定	評価の実施日	2011/11月
敷地面積	7,639 m ²	作成者	スズキ設計 鷹邦昭
建築面積	1,724 m ²	確認日	
延床面積	13,954 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: A: B+: B: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% 60% 80% 100% 100%超

建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

参照値: 100%

建築物の取組み: 72%

上記+ 以外のオンサイト手法: 70%

上記+ オフサイト手法: 70%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4.0

Q1 室内環境: 4.0

Q3 室外環境(敷地内): 3.6

LR1 エネルギー: 4.7

LR2 資源・マテリアル: 3.7

LR3 敷地外環境: 3.5

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>本建物は、北九州市の省CO₂推進モデル事業の普及、促進の第一弾として、省CO₂技術を取り入れた省エネ型住宅の供給を行い、その効果を他の集合住宅へ波及させることを目指しています。又、市内定住を促進する住戸プランの供給、第1期も含めた街区全体として、海と山の眺望を生かした住棟計画とし、更に、ストック型社会への転換建物として、長期優良住宅の認定をうけています。</p>	<p>HEMSによる「見える化」 太陽光発電パネルを設置(共用部のみ)</p>
<p>Q1 室内環境 温熱環境の省エネルギー・対策等級4を確保 内装材等にFの建材を採用</p>	<p>Q2 サービス性能 共用部のバリアフリー性能の確保 耐震等級2、劣化等級3の確保による躯体の長寿命化</p>
<p>LR1 エネルギー 自然冷暖ヒートポンプ給湯機とLED照明等による設備の高効率化</p>	<p>LR2 資源・マテリアル リサイクル建材の利用 節水型器具 雨水の浸透</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内) 第一期の緑地広場と連続した緑地広場 外構緑化指数45% 透水性舗装</p>
	<p>LR3 敷地外環境 躯体の耐久性向上によるLCCO₂の削減効果 オール電化</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい